

# 令和3年度「全国学力・学習状況調査」

## 1 調査の対象

小学校第6学年の全児童と中学校第3学年の全生徒を対象にして、令和3年5月27日(木)に実施されました。

## 2 調査の内容

- 教科に関する調査(国語、算数・数学)
  - 知識及び技能、それらを活用する力を問う問題が一体化された調査です。
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - 「学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等」に関する調査です。



## 3 調査の結果と考察

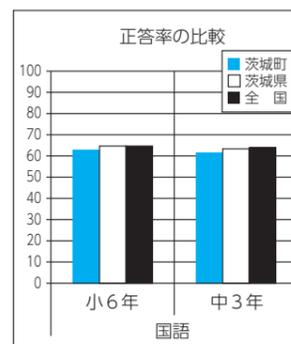
### (1) 教科に関する調査

#### 国語(小学校226名、中学校239名)

##### ○ 小学校について

県平均、全国平均をともにやや下回る結果となりました。中でも、条件が指定された記述式問題や文章と資料を関連付ける問題の正答率が低く、これは、茨城県全体における課題とも一致しています。目的や意図に応じて、自分の考えの理由や根拠を明確にしながらかく活動や、文章中に用いられた資料(図表やグラフ等)が文章のどの部分と結びついているかを正確に捉えて読み進めていく活動を重視していきたいと考えています。

一方で、文中で漢字を正しく使う問題や、修飾と被修飾の関係を捉える問題は全国平均を上回っていました。これは、基礎的な言語事項の確実な定着に向けて家庭学習と連携を図ったことや、対話的な学習において自分の思いや考えを正確に伝え合う活動を重視してきた成果であると捉えています。今後も読書活動を推進し、読解力のさらなる向上に努めるとともに、AIドリル等を活用した家庭学習の充実を図っていきます。



##### ○ 中学校について

県平均、全国平均をともにやや下回る結果となりました。小学校と同様に、条件が指定された記述式問題の正答率が低い傾向が見られただけでなく、無解答率(解答欄に何も書かなかった生徒の割合)が非常に高いことがわかりました。原因として、問題文の意図を正確に捉えることができなかつた生徒や、書くことに対する抵抗感がある生徒が多いのではないかと考えられます。複数の条件を正しく読み取った上で、あきらめずに粘り強く自分の考えをかく活動を重視していきます。さらに、漢字の読みや正しい敬語の使い方など、言語事項に関する問題の正答率が全国平均を大きく下回りました。円滑な人間関係を築いていくためには、敬語のもつ働きを理解して適切に活用する力を身に付けることが大切です。日常生活を通じて、相手や場に応じた言葉遣いを理解できるようにする工夫をしたいと考えています。

一方で、登場人物の言動の意味を考えたり、筆者の見方や考え方を捉えたりする「読む能力」を問う問題の正答率は全国平均を上回りました。これは、読書活動の推進はもちろんです。文学的文章を読んで考えたことなどを伝え合う活動の充実による成果であると捉えています。今後も、読むことの学習過程を重視しながら、読解力や自分の考えを形成する力をさらに高めていきます。

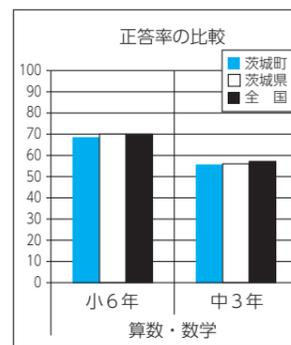


#### 算数・数学(小学校226名、中学校239名)

##### ○ 小学校について

県平均、全国平均をともにやや下回る結果となりました。中でも、三角形の面積の求め方や二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述することに大きな課題が見られます。多角形の面積を求める際の基礎となる「三角形の面積の公式」を、全ての児童が確実に理解できるよう努めるとともに、自分の考えが相手に伝わるよう筋道立てて説明する活動を重視していきたいと考えています。この際、タブレット端末や電子黒板などICT機器の効果的な活用や、矢印・アンダーラインを含めた思考ツールの日常的な活用が一層推進されるよう努めていきます。

また、棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る問題は高い正答率を示したものの、帯グラフで示された複数のデータを比較してわかったことを記述する問題は低い正答率でした。さまざまなグラフの特徴を正しく理解した上で、身の回りの事象をデータに基づいて判断する統計的な問題解決の方法で考察することを重視していきます。



### ○ 中学校について

県平均、全国平均をともにやや下回る結果となりました。中でも、図形領域と関数領域に課題が見られました。近年この傾向が続いています。さらに、ある条件の下で成り立つ性質を見出す問題や、それを言葉で説明する問題の正答率が非常に低いです。今後も対話的な学習の充実を図りながら、式や言葉など数学的な表現を適切に用いて証明したり、図やグラフと式を関連付けて説明したりする活動を重視していきます。一方で、中央値を求める問題やヒストグラムを読み取る問題(資料の活用)で高い正答率を示しました。小学校と同様に、身の回りの事象をデータに基づいて判断する統計的な問題解決の方法で考察することを重視していきます。



### 新しい学習指導要領の全面实施に関して

小学校は昨年度より、中学校は今年度より全面实施となった新学習指導要領で育成を目指す資質・能力の三つの柱は、「何を知っているか、何ができるか」という【知識・技能】、「知っていること、できることをどう使うか」という【思考力・判断力・表現力等】、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という【学びに向かう力・人間性等】です。これらの資質・能力は、【主体的・対話的で深い学び】を通して育成されるものであり、学びの深まりを生む鍵として各教科等における「見方・考え方」を働かせることが重要だと言われています。町では、今後も「学び合い」と「ICT活用」を柱にした授業改善を進めるとともに、「小中連携」や「保幼小の円滑な接続」における取り組みの一層の推進を図っていきます。

新学習指導要領の全面实施に伴い、小学校3・4年生の「外国語活動」と5・6年生の「外国語」が既に始まっていますが、茨城町の小学校では英語専科の教員とALT(外国語指導助手)がチームを組んで「質の高い英語教育」を行っています。また、全ての教科で評価の観点【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の3つに統一されました。児童生徒に渡す通信票も3観点の評価が反映されています。

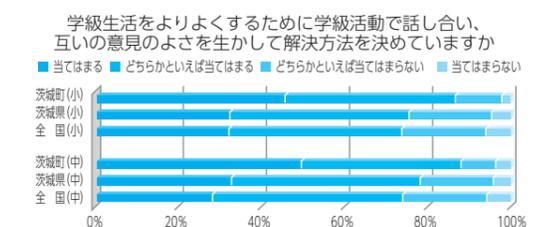
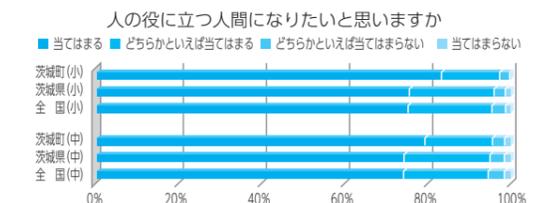
教育の大きな変革にスムーズに対応することができるよう、町ではさまざまな研修を行って教職員の資質向上に努めているところです。茨城町の教育のさらなる充実を目指し、今後も努力していきます。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

#### 全国平均を上回った主な質問項目

小中学生ともに、朝食の摂取や起床及び睡眠時刻など基本的な生活習慣の定着や、学校の規則を守ろうとする規範意識が高いことがわかりました。また、「人の役に立つ人間になりたい」と思っている児童生徒の割合は、全国平均を大きく上回っていたことに加え、「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した割合も非常に高いことから、学級のまとまりが基盤となつてあたたかい人間関係が構築されていると感じます。

さらに、「地域の行事に参加している」と回答した割合も非常に高く、住んでいる地域との積極的な関わりを通して愛着を感じていることがうかがえます。また、「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と回答した児童生徒が多いこともわかりました。



#### 全国平均を下回った主な質問項目

「自分にはよいところがある」や「将来の夢や目標を持っている」という質問項目など、全国平均が小学生は高く、中学生は低いという傾向が見られました。自尊心は、自分を大切に思う気持ちと密接に関連しています。町の小中学校では、児童生徒を前面に出した行事運営など、自己有用感を高めるさまざまな取り組みを行っています。自分のよさに気付くとともに、他人のよさにも気付く子どもたちを育てていきます。

また、全国平均と比較して1日あたりの読書時間が短いことや、新聞を読んでいる児童生徒が少ないことがわかりました。

